

◆◆◆◆◆トピックス（上都賀地方のこの一年）◆◆◆◆◆

【中古施設の活用による就農時の初期投資軽減策の取組が増加】

- 近年の物価高騰や資材価格の上昇により初期投資負担が増大し、新規就農者にとって大きな障壁となっています。
- このような状況を踏まえ、新規就農者が負担を抑えて営農を開始できるよう、中古施設の修繕に対し「経営資源有効活用リフォーム支援事業」を推進しました。
- 本年度は事業への関心が高まり、活用件数は昨年度の1戸から3戸へと増加し、円滑な営農開始に繋がっています。
- 引き続き、事業活用を推進し、初期投資負担の軽減と早期の経営安定化を支援していきます。



中古施設を解体して得られた資材



中古施設の資材を活用して
修繕されたハウス

【地域計画の実現に向けた支援活動を展開】

- 地域計画が策定された2市（鹿沼市、日光市）・27地区において、地域計画の実現に向けた農地の集積・集約化を推進しています。
- 各市において1か所の重点支援地域を設定し、研修会の開催や事例調査、農地利用の最適化に係る優良事例の共有など、課題解決につながる取組を実施しました。
- 今後とも、重点支援地域等を中心に、地域計画の更なるブラッシュアップを伴走支援していきます。



先進地事例調査（福島県）



先進地意見交換（鳥取県）

【市や JA 等と連携した研修制度により新規就農者が増加】

- いちご、にらの新規就農者の確保に向け、鹿沼市及び日光市は、市農業公社や農業者が管理するほ場で収穫体験会等を開催し、参加者 17 名に対し、研修を経て就農していく具体的なメリットを紹介するなど、就農促進に取り組みました。
- 令和 8 年度には、研修制度を修了した 10 名が就農する予定です。
- 今後も地域との密接な連携により、就農希望者の円滑な就農・定着化を支援して参ります。



にら収穫体験会



いちごのパック詰め体験

【かみつが農業女子の活動支援】

- 令和 7 年度にメンバーが 18 名となり、今年度はグループ活動の充実を図る目的で、多くのマルシェに出展・参加しました。
- 上都賀地域で頑張っている女性農業者の紹介や自慢の農産物・加工品の PR など、一般消費者との交流の中で、消費者から何を求められているのか、どのように PR すれば違いや良さを伝えられるのか、それを生産している自分たちの想いが伝わるのかなど、実践の中で多くのことを学びました。
- また、メンバーそれぞれも、個別の経営環境に応じた様々なプロジェクトを展開しており、お互いに情報交換を行うことで、活動の更なる充実が期待されます。



とちぎ食と農魅力発見フェア出展



料理教室「ごはんのお供 COOKING」

【「とちあいか」の普及拡大、単収向上技術支援】

- 近年の資材・人件費高騰により、いちご生産者の所得低下が懸念されていることから、高単収で収益向上が期待できる新品種「とちあいか」の普及拡大に取り組みました。
- また、栽培技術の確立を図るため、展示ほ等から得られた品種特性や技術情報について、個別巡回や現地検討会、講習会等を通じて、生産者への周知、指導を行いました。
- これにより、令和7年産では、栽培戸数が管内生産者全体の8割を超える135戸に増加し、単収はとちおとめ4.1tに対し5.9t、販売額は32億円と、過去最高を更新する成果が得られました。

いちご新品種「とちあいか」を作付けしましょう！

いちご新品種「とちあいか」は、令和5年産では県内で683名の生産者が栽培しており、上都賀管内においても60名（前年比2.0倍）、8.6ha（前年比2.3倍）で栽培され、消費者からも「食味が良く、一度食べるとまた食べたい」という意見など高い評価をいただいています。

令和6年産では、上都賀管内において生産者数・栽培面積とも更に増加する見込みであり、県全体でも作付拡大が進むと見られます。

とちあいかの特徴

- 総収量が多い。
- 草勢管理がしやすい。（株数を起こしにくい）
- 収穫始期（花芽分化）が早い。
- 心止まり（芽なし）が少ない。
- ランナー発生が多く、チップバーン・先枯れが少ない。
- 食味が良い。
- 果形がきれいで、果実が大きく、小玉果が少ない。
- 収穫作業、バック詰めが楽である。



とちあいかの果実状況

また、収穫初期の出荷ロスが多いことが課題でしたが、令和5年産では栽培マニュアルに基づく対策により大幅に出荷ロスが低減できており、品種特性に合わせた栽培管理が確立されてきています。気温が高くなる3月以降は「果実の色まわりが早く収穫期間が短い」等の課題もありますが、所得向上が期待できる品種です。積極的にいちご経営に取り入れ、所得向上を目指しましょう！

その他、とちあいかの栽培に関する御相談は、上都賀農業振興事務所までお問い合わせください。



とちあいか現地検討会

とちあいか作付け推進記事

【細霧冷房による花き暑熱対策】

- 近年、夏季の高温により、花きの花芽分化異常や開花遅延が問題となっています。
- シクラメンの施設栽培において、高温の影響を回避するため、気化熱の原理を利用した細霧冷房の導入を推進しました。
- 6～9月の高温時における冷房処理により、施設内及び葉の温度が約4℃低下した上、11月からの出荷期には開花遅延はなく、品質も優れました。
- 低コストで効果的な高温対策技術として期待されます。



稼働中の細霧冷房



出荷期を迎えたシクラメン

【にらの産地拡大に向けた支援】

- にら産地の拡大を図るため、上都賀地域にら戦略に基づき、生産性の向上と省力化を推進しています。
- 令和7年度は、国庫補助事業を活用してパイプハウスの整備やウォーターカーテンの導入を推進し、産地の栽培面積が3.4ha増加しました。
- また、出荷調製作業の省力化に向け、新たに開発された「そぐり機」について、実演会や補助事業の推進等により、産地への導入を支援しました。
- 今後も、更なる規模拡大及び省力化に向けた取組を支援し、収益力向上を図ります。



パイプハウスの整備



「そぐり機」実演会

【さといもの生分解マルチ、省力機械の導入検討】

- 県内一のさといも産地のさらなる強化に向け、各種プロジェクト活動を展開しています。
- 作付拡大を図るため、さといもの高品質化、省力化技術の実証展示ほ設置や検討会を開催するとともに、ほ場整備地区において作付を推進しました。
- 今後も、ほ場整備計画及び実施地区等に高収益作物として作付を推進し、新規栽培者の確保による産地拡大を目指します。



マルチ比較展示ほ見学会



省力機械等導入検討会

【米の産地体制強化】

- 夏季高温の影響により、白未熟粒や病害虫の発生が見られ、米の品質及び収量低下が懸念されています。
- JA かみつがでは、米の品質維持及び受け入れ体制の強化を図るため、色彩選別機の導入や荷受施設の改修など、南上野カントリーエレベーターの機能強化に取り組みました。
- 今後は、施設の合理化に合わせ、高温登熟性の高い「とちぎの星」への転換を進め、品質の高い主食用米の安定生産を推進します。



稲刈り風景



色彩選別機

【コントラクター組織の育成】

- WCS (Whole Crop Silage) の収穫・調製を行う法人経営体における不安定な組織運営の解決に向け、構成員を対象に個別巡回を行い、課題解決を図るための話し合いの場づくりを支援しました。
- また、補助事業の活用支援を行い、汎用型微裁断飼料収穫機が導入されたことにより、作業効率及び品質が向上するとともに受益面積が拡大し、経営力の強化が図られました。
- 今後も、自主的な運営及び持続的な発展に向けた取組を支援していきます。



乾田直播の実施



汎用型微細段飼料収穫機での作業

【農泊拠点の整備と地域資源活用で誘客促進】

- 日光市を訪れるインバウンドを含む多くの旅行者は、観光だけでなく「地域の文化や食の体験」を求めており、農村地域資源を活用した誘客の可能性に期待が高まっています。
- 「のらのわ～タガヤスネットワーク～」は、「日光地域農村グローバルビジネス創出計画」を策定し、農泊の拠点となる宿泊施設整備や、地域事業者と連携した体験メニューを開発しました。
- 今後は連携事業者の拡大とともに、体験メニュー等の充実化を図り、誘客を促進することが期待されます。



体験メニューの開発
(干し芋作り)



体験メニューの開発
(酒蔵見学)

【薄井沢地区で農地バンクの活用により8割の農地が集積】

- 令和2年度から、日光市薄井沢地区において農地整備事業に着手し、担い手農家への農地集積（令和13年度までに80%を目標）を進めています。
- 各農家への働きかけにより、令和6年度末には農地集積80%が達成されるとともに、7年度は、農地バンクの活用により機構集積協力金が交付され、地域づくりに活用されました。
- 今後は、農地の集約化率80%に向けた取組を支援するとともに、収益性の高い園芸作物等の導入を推進していきます。



集積に向けた話し合い



農地集積状況図

【ほ場整備事業地区（玉田地区、轟地区）の計画樹立】

- 玉田地区（鹿沼市）、轟地区（日光市）では、地元の推進組織が中心となり、さまざまな関係機関と連携しながら、令和8年度の国庫補助事業採択を目指し、準備を進めてきました。
- ほ場整備事業では、狭小で不整形な水田の大区画化と併せて、水路や農道等も整備することにより、大型農業機械の活用や効率的な水管理が可能となります。
- また、これらの地区では事業を契機に、地域の農業を将来に渡り支える担い手の育成や、収益性の高い園芸作物等の導入に取り組んでいきます。



玉田地区（鹿沼市）



轟地区（日光市）

【地域の多様な人材と連携した多面的機能支払交付金活動組織の取組の展開】

- 多面的機能支払交付金活動組織は、農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、草刈り、水路補修等、地域資源の保全管理活動を行っています。
- 持続的な活動には、女性や非農家などの多様な人材の参画が重要であることから、「女性意見交流会」を開催し、女性の参画促進に向けた意見交換を行いました。
- また、鹿沼市の「磯町の自然を守る会」は、地域の若手や女性を巻き込んだ取組が関東農政局の最優秀賞を受賞しました。



令和7年度関東農政局多面事業局長表彰
（最優秀賞）



令和7年度女性意見交流会

【「みえるらべる」を系統出荷組織として初めて活用】

- ・JAかみつが日光特別栽培米研究会は、環境保全型農業直接支払交付組織として、平成24年から減農薬・減化学肥料栽培に継続して取り組んできました。
- ・今回、農薬・化学肥料の5割低減と機械除草の実践が、温室効果ガス削減に繋がる緑肥施用及び生物多様性保全の取組として認められ、「みえるらべる」活用が可能となり、令和7年産米から表示しています。
- ・今後も「みえるらべる」を活用し、環境にやさしい栽培方法で生産した米のPRと新たな販路開拓を図ります。



視察研修会



「みえるらべる」の活用

【大豆の収量確保に向けた取組】

- ・猛暑による大豆の収量及び品質低下が課題となっていることから、大豆根粒菌資材を用いた展示ほを設置し、生育や収量への効果を検証しました。
- ・播種前に大豆根粒菌資材を種子粉衣しても、生育ステージによる差は無く、増収効果が確認されました。
- ・根粒菌接種は、資材費や種子粉衣の労働経費などコストはかかりますが、総合的に判断すれば所得向上につながり、経営改善効果が期待できます。
- ・今後は、本資材の普及を見据えて効果検証していきます。



種子粉衣した根粒菌資材
(茶色粉状が根粒菌)



根粒菌接種の着莢効果
(左が接種区)

【SNS による情報発信の強化】

- 上都賀地域は、魅力的な地域資源や農産物、観光資源が豊富にあり、幅広く認知されるよう定期的な情報発信を行っています。
- 令和7年度は、特に紅葉やいちご等の関心の高まるシーズンに強化月間を設け、農政部公式 SNS による積極的な情報発信を行いました。期間中は、閲覧数や投稿へのリアクションの増加が見られ、認知度の向上が図られました。
- 今後も、季節やイベントに合わせた情報発信を通して、上都賀地域の農業農村の認知度向上に努めます。



管内いちご狩り情報



地元物産店の紹介

【家畜防疫演習により関係機関・団体との危機管理対策を共有】

- 特定家畜伝染病が発生した際には、迅速な防疫対策の実施が必要となります。
- そこで関係機関・団体を参集し、家畜防疫の事案発生時の初動体制や措置の手順等について演習を実施しました。
- 演習では、特定家畜伝染病の発生状況や鳥インフルエンザ発生時の対応に関する座学に加え、管内での発生を想定したグループワーク形式による情報伝達を行いました。
- 今後も未然防止対策を進めるとともに事案発生に備えた関係機関・団体との連携を強化していきます。



1 部



2 部